



修復前 before restoration



修復後 after restoration



裏面の絵画修復
Treatment of the painting on the rear side

修復の過程で大扉の裏面にも絵画が描かれており、貴重な歴史資料であると判断されたため合わせて修復することになった。

ワット・スタット寺院大扉
Incised Door Panels of Wat Suthat, Thailand

18世紀後半～19世紀前半

c. late 18th - early 19th century

ワット・スタット寺院は、タイ国ラタナコーシン朝第2代ラーマ2世王（1766～1824）が創建した王室寺院であり、本尊としてスコタイから請来した大仏（15世紀）を安置するほか、寺院内に数多くの文化財を所有している。

修復助成対象の仏殿大扉は、ラーマ2世王自らがデザインし、彫ったと伝えられており、その超絶技巧の技はタイの伝統技術を伝える木彫美術の白眉として知られている。1959年の火災で焼損した後、処置が行われていなかったが、今回の修復で大扉裏面も含め適切な修復がなされた。その後、九州国立博物館及び東京国立博物館で開催された2017年日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」で展示された。